〈解答〉

1

1　①訪　②準備　③せいこん　④いつわ

2　オ

3　イ

4　めっきゃく

2

1　はら　2　いこん　3　ばっすい　4　授

5　変革　6　謝罪　7　けたちが　8　えつ

9　ほうてい　10　朗　11　億万　12　脳裏

配点　1 3は2点、他は各1点　20点満点

〈解説〉

1

1　①「訪」には「おとず（れる）」のほか「たず（ねる）」という訓読みもある。音読みは「訪」で「探訪」などの熟語として用いられる。

②「備」の訓読み「そな（える）」には同訓異字の「供える」があるが、「備える」は「前もって用意する」、「供える」は「神仏などに差し上げる」という意味。

③「精魂」は「たましいや精神」という意味。

④「偽」の音読みは「ギ」で「偽造」「虚偽」などの熟語として用いられる。

2　A「なさって（なさる）」は「する」「なす」の尊敬語。B「いらっしゃった（いらっしゃる）」は「行く・来る」「居る」の尊敬語で、本文の場合は「居る」の尊敬語となる。C「うかがった（うかがう）」は「聞く」「尋ねる」「訪れる」の謙譲語で、本文の場合は「尋ねる」の謙譲語。

3　「巧詐不如拙誠（巧詐は拙誠に如かず）」という漢文では、「誠」という漢字から二字前にある「如」という漢字に返って読み、また、「如」という漢字から直前の「不」という漢字に返って読んでいることがわかるので、「誠」の左下に「一」、「如」の左下に「二」、そして「不」の左下に「レ」という返り点があるものを選べばよい。

4　「心頭滅却」は「心を無にすること」という意味の四字熟語で、「心頭滅却すれば火もまた涼し（＝雑念を排して集中すれば火の中でも涼しく感じるということ→困難な状況にあっても超越した境地にあれば苦しくないということ）」という言葉として使われる。

2

1 「払う」は「注意を払う」や「犠牲を払う」などの慣用的な表現として用いられる。「注意を払う」は「強く意識する」「物事を念入りに調べる」という意味で、「犠牲を払う」は「目的を達成するために大切なものなどを代償として差し出す」という意味。

2 「遺恨」は「忘れがたいうらみ」という意味。「遺」を使った熟語「遺言」には「イゴン」のほか「ユイゴン」という特別な読みがある。「恨」の訓読みは「うら（む）」「うら（めしい）」。

3 「抜粋」は「書物や作品からすぐれた部分や必要な部分を抜き出すこと」という意味。「抜」の訓読みは「ぬ（く）」「ぬ（ける）」「ぬ（かす）」「ぬ（かる）」、「粋」の訓読みは「いき」。

4 「授かる」は「目上の人などから大切なものを与えられる」という意味の動詞。「授」の音読みは「ジュ」で、「授業」「伝授」などの熟語として用いられる。

5 「変革」は「物事を変えて新しくすること」という意味。「変」の訓読みは「か（える）」「か（わる）」、「革」の訓読みは「かわ」。

6 「謝罪」は「罪やあやまちをわびること」という意味。「謝」の訓読みは「あやま（る）」、「罪」の訓読みは「つみ」。

7 「桁違い」は「価値や規模などが他と比較にならないことや、そのさま」を表し、似た意味の慣用句として「桁が違う（＝格段の差がある）」がある。

8 「悦」は「喜ぶこと」という意味の漢字で「悦に入る」は「事がうまく運び、満足して喜ぶ」という意味の慣用表現。

9 「法廷」とは「裁判が行われる場所」のこと。「廷」の部首である「廴（えんにょう）」は三画。

10 「朗らかだ」は「心にこだわりがなく、晴れ晴れとして明るいさま」を表す形容動詞。「朗」の音読みは「ロウ」で「朗報」「明朗」などの熟語として用いられる。

11 「億万」は「数がとても多いこと」という意味で、「億万長者」は「普通の人には望めないほどの資産家」という意味になる。

12 「裏」には「おもての反対側、うら」という意味のほか、「内側」という意味があり、「脳裏」は「頭の中や心の中」という意味になる。